

idea

ニュースレター「アイデア」

2023.7

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 熱気球パイロット(前編) 小岩俊彦さん
- 3 | 団体紹介 | オカリナサークル ハピネス
- 5 | 地域紹介 | 新町地区自治会(千厩)
- 7 | 企業紹介 | 便利屋サンライト(花泉)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴③ 規格外にも、プライドがある
- 9 | センターの自由研究 | 暮らし調査ファイルNo.22「調理の習わし」

今月の表紙

源義経の愛馬・大夫黒が育ったとされ、その地名の由来にも馬が関係する(千の厩(=馬小屋))とされる千厩。千厩町千厩の新町地区にある「じゃじゃ馬通り」には、凛々しい馬の顔と、蹄鉄が模られた車止めポールのほか、街路灯にも馬のモチーフが装飾されています。昭和62年から平成11年にかけて行われた沿道区画整理型街路事業によってできた景観であり、魅力ある商店街づくりの一助だったようです。(地域紹介)

idea

発行 いちのせき市民活動センター
せんまやサテライト

〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel:0191-26-6400 Fax:0191-26-6415
〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel:0191-48-3735 Fax:0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: center-i@tempoon.ne.jp

お知らせ

募集

NPO法人北上川サポート協会 「Kids★わくわく探検隊」

「NPO法人北上川サポート協会」では、小学1年生～中学3年生の子どもを対象に、川の調査や、食べる、アートなど「自分たちで考え、実践する」ことに挑戦する「kids★わくわく探検隊」の参加者を募集しています。詳しくは下記まで。
※「いちのせき元気な地域づくり事業」で実施
開催日: ※全6回中、定員に空きのあるもの
8月27日/9月18日/9月23日
※内容、時間等は日程によって異なる。
場所: 川崎防災センター
(一関市川崎町薄衣字如来地100-1)
定員: 15名(各回)
参加費: 各回500円/一人
問合せ: 0191-36-5666
(川崎防災センター ※月曜休館)

イベント

「第9回はないずみ昔かたり」 開催のお知らせ

花泉町内を拠点に、地域に伝わる「むかしばなし」や、大型紙芝居を使用した読み聞かせを行う、「花泉語り部の会『いずみの里』」では、第9回目となる「はないずみ昔かたり」を開催します。方言を交えた独特な口調で、「逆芝山」、「月館さんの御神馬」など花泉に関する民話を含む5つの「むかしばなし」を披露します(会員のうち5人が1人1話披露)。発表者や演目など、詳しくは下記まで。
日時: 2023年7月20日(木)
13時30分～14時30分
場所: 一関市立花泉図書館内
問合せ: 0191-82-2780
(事務局・藤堂)

情報

法人化のお知らせ (久保川イーハートブ自然再生研究所)

令和5年3月31日付で、「久保川イーハートブ自然再生研究所」が法人化し、「一般社団法人久保川イーハートブ自然再生研究所」となりました。同法人は当該地(「久保川イーハートブ世界」)における生物多様性の高さを向上させることを目的に、外来種の除去、放棄農地・林の自然再生事業、動植物に関する調査・研究、情報発信などを行います。
法人名: 一般社団法人
久保川イーハートブ自然再生研究所
設立日: 令和5年3月31日
代表理事: 千坂峻峰 他2名
事務所: 一関市萩荘字焼切179-7
問合せ: 0191-29-3066(知勝院内)

情報

『Charcas(チャーカス)』 Vol. 3 発刊

藤沢町の地域協働体「藤沢町住民自治協議会」の事業部会では、2023年3月に藤沢の魅力を発信する情報誌『Charcas Vol.3 ～楽style(エンジョイスタイル)～』を発刊しました。自分の趣味や特技を生かして、様々な活動を楽しむ個人・団体の紹介に加え、インタビュー動画も視聴できるようにしています。同誌は一関市藤沢市民センターのほか、近隣の道の駅等に配架しています。詳しくは下記まで。
問合せ: 0191-63-5515
(一関市藤沢市民センター内
藤沢町住民自治協議会)

情報

里仁堂(りじんどう)ギャラリー 「スター記念切手」展示中

千厩町の(株)白石薬店内に設けられている「里仁堂ギャラリー」では、現在、往年のハリウッド映画や日本映画スターの記念切手が展示されています(展示終了日未定)。同ギャラリーは、店内のデッドスペースを「自分の趣味を生かすつ、地域の方が気軽に立ち寄れる場所」としてリノベーションしたもので、店主のコレクションが並びます。詳しくは下記まで。
展示時間: <平日> 9時～18時
<土曜日> 10時～14時
※日曜日、祝日は休業
場所: 一関市千厩町千厩字町37
問合せ: 0191-52-3138
(株式会社白石薬店)

イベント

「いちのせき市民フェスタ23」 開催のお知らせ

一関市内で活動を行う市民活動団体を中心に、個人・企業等が一堂に会し、活動紹介をはじめ、各種体験会等により交流を図りながら、市民のまちづくりへの参画を促進する「いちのせき市民フェスタ」を下記日程で開催します。今年は約50団体が参加予定。詳しくはHP等をご覧ください。
日時: 2023年8月27日(日)
10時～15時
場所: 千厩アイスアリーナ
千厩農村環境改善センター
料金: 入場無料
HP: <https://www.center-i.org/>
問合せ: 0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「店主の思い出の品々」



令和3年、千厩町の(株)「里仁堂ギャラリー」の店主の気分次第で様々なジャンルの切手や本が飾られています。現在の展示品は「往年のハリウッド映画や日本映画スターの記念切手」。ギャラリーの詳細は上記「お知らせ」をご参照ください。



旧町村別の人口動態等を共有します。

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	54138	-43	24544	26
花泉	12000	-13	4714	2
川崎	3228	-7	1278	-1
千厩	9837	-4	4111	-3
大東	11881	-30	4904	-5
東山	5883	-13	2279	-1
室根	4370	4	1788	11
藤沢	7110	1	2787	5
一関市全体	108447	-105	46405	34
出生数	38	3		

2023年6月1日付
(2023年5月31日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

172 / 108,447

小岩 俊彦

「一関・平泉 黄金の國バルーンクラブ」会員(平成28年～市民ボランティアとして同会の活動に参加)であり、熱気球パイロット(熱気球操縦士技能証2031号)として「黄金の國一関・平泉号」の係留体験時の操縦も行う。普段は一関工業高等専門学校^{※1}の技術室に所属し、学生の実験実習支援や研究支援などを担当。昭和47年、一関市弥栄生まれ(在住)。



第107回

熱気球パイロット 小岩俊彦【前編】
千田 修一【後編】

いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

「非日常の光景」が身近にある一関へ ～市民パイロットの挑戦【前編】～

東北地方初の本格的な熱気球大会として平成24年に第1回が開催された「一関・平泉バルーンフェスティバル」^{※1}。平成27年からは「熱気球ホンダグランプリ」にも組み込まれ、当市の秋の風物詩となりました。全国各地の熱気球パイロットが集結する大会ですが、実は当市にも2人、市民パイロットが誕生しています。熱気球による空への挑戦を続ける2人が思い描く光景(目標)とは？(2回シリーズの前編)

小野寺 小岩さんが当市における市民パイロット第1号ということですが、そもそも熱気球のパイロットというのは、どのような資格ですか？

小岩 日本には熱気球パイロットの国家資格がないので、一般社団法人日本気球連盟公認の「熱気球操縦士技能証」が日本におけるパイロットライセンスと言えるものです。この技能証を平成30年に取得しました。

小野寺 国家資格じゃないんですね！取得するための要件などはあるんですか？

小岩 満18歳以上などの要件に加え、所定の講習会を受講し、インストラクターが同乗する訓練飛行を10回・10時間以上受けるなどのほか、筆記試験や実技試験に合格する必要があります。所属するチームやクラブにインストラクター資格をもったパイロットがいれば、トレーニングを受けることができました。

完全に引き込まれますよね。

小岩 「エアマンシップ」として、ちゃんとマニュアルがあるんです。地上にいる人には挨拶しなさい、近寄ってきたらコミュニケーション取りなさいよ、とか。実際、渡良瀬などの気球が盛んな地域では、地元の人たちが普通に手伝ってくれるんですよ。地域に根付いています。

小野寺 一関市民にもバルーンフェスはだいぶ定着してきた感じがありますが、「熱気球を見たらパイロットに手を振ってあげてください」とか、市民にもっと発信すべきなんですよ。

小岩 そうですね。「熱気球が飛んでる！手を振ったら振り返りしてください！」なんて、お互いコミュニケーションできるようなになれば最高ですね。あとは着陸する場所も田んぼなどを使わせていただくかなければならないので、地元みなさんにもご理解いただき、一緒に熱気球を盛り上げていけたらと思います。

小野寺 当初は「なーに、熱気球なんて」という人が多かった

当会にはいなかったもので、有償トレーニングを受けて、そのまま試験に臨みました。

小野寺 仕事をしながらの受講は大変だったのでは？

小岩 トレーニングは渡良瀬遊水地で行われたのですが、学生が冬休みに入るクリスマスまでから有給休暇をとってチャレンジしました。天候に左右されてしまったため、有給休暇の残りが不安でしたが(笑)1月7日まで一人で渡良瀬に住み込みでトレーニングを受け、なんとか終了することができました。

小野寺 実技試験の内容はどのようなものなんですか？

小岩 筆記試験は航空法や天候機体の構造、安全、フライト方法などに関する内容で、勉強すれば何とかありますが、実技試験は当日のフライトプランを天気予報の情報(天気図や風向き)を基に立てる必要があったので、

ですが、ここ数年は空を見上げる市民の光景が見れるようになって、やっぱり回数を重ねることは大事なな、と。一度離陸の瞬間を生で見ると感動して見方が変わりますし、小岩さんたち市民パイロットの存在を、市民は応援して欲しいですね。

小岩 熱気球が空を飛ぶ光景は非日常的な世界。実は自分の機体を購入したので、秋からは一関の上空を飛びたいと思っています。ぜひ楽しんで欲しいです。

小野寺 それはすごい！いずれはレースも目指すんですか？

小岩 まずはフライトを楽しむことかな(笑)家族の協力があって実現したことですし、まずは家族やクラブの方、職場の方などと一緒に一関の上空を飛んで、熱気球ファンをどんどん増やしていきたいと思っています。

小野寺 関わり方が分からないだけで、好きな人、クルーになつてみたい人は絶対いるはず。熱気球に向かって手を振る市民が増えて、空と地上とで良い光景を創り出したいですね。

朝3時半くらいから起きて、離着陸地をどこにするか、一人悩んでいました。フライト中も一定の高さを維持する必要があったり、指示されたところに着陸しなければいけなかったりで、自分にとっては難しかったです。

小野寺 「ここで止まって」と言われても、車のようにブレーキを踏むわけじゃないので難しいですね。

小岩 熱気球の着陸にはブレーキの代わりにバーナーを焚くのですが、熱気球の大きさによってもレスポンスが違っているので、焚きすぎてまた上昇してしまうことが度々あったり、熟練したバーナー操作技術が必要だと実感しています。職人技です(笑)

小野寺 操縦も大変ですけど、機体の立ち上げや回収作業なども、結構な重労働ですよ。

小岩 そう、スポーツみたいですよ。球皮だけで100kg近くあり、そこにガスボンベ4本とバスケットなどを足すと、全部で300kg近くになる。それらを田んぼなどの足場の悪い着陸地

から回収するのは、かなりの力仕事で、体力勝負です。そしてクルーがいないと成り立たないチームスポーツでもあります。

小野寺 僕もチェイスカーにさせてもらって、サポートをしたことがあるんですが、機体の回収やガスの充てんなど、結構疲れました(笑)でも、GPSを見ながら機体より先回りして地上からの情報を伝えたり、地上のパイロットと作戦を練ったり、すごく面白くて。

小岩 僕もオフィシャルバルーンチェイスカーに初めて乗せてもらったとき、初対面のボランティアの人たちがクルーになつていて、最初は抵抗がありましたけど、みんなで助け合う独特の世界感がありますよね。

小野寺 同感です(笑)それから、一流パイロットのフライトに乗せてもらった時には「丸いバルーンの影が、山の角度によってはハートに見えるよ」など、上空からの風景の見方とか、地上の人たちとのコミュニケーションの取り方とかを教えるも、そういう経験をすると、

※4 気球を飛行させるためのスタッフ。作業のみならず、飛行中のパイロットへ無線による情報提供や誘導なども行う。
 ※5 フライト気球を回収するために、気球を追跡する車。レースの際には単なる回収のみならず、クルーが乗り込み、パイロットとのやり取りも行う。
 ※6 バルーンの離着陸時に田畑を利用することがあるため、耕作物に配慮し、熱気球のフライトは晩秋～春先に行われることが多い(熱気球は外気との温度差で浮くため、寒い時期の方がフライトに向いているという面も)。

※1 日本各地で開催される熱気球大会から「Honda」が4戦をシリーズ化したもの。グランプリ・ポイントの累積数でチャンピオンを決定する。今年は一関・平泉バルーンフェスティバルが第2戦の地として10月13日～15日に開催予定。
 ※2 栃木県栃木市にある日本最大の遊水地で、スカイスポーツが盛ん。 / ※3 プロフィール参照

団体紹介

オカリナサークル ハピネス

平成29年結成。個々のオカリナ演奏の技術向上のほか、イベント出演や慰問等を通してオカリナの魅力を広めるべく活動中。現在の会員数は27名(準会員含む)。月2回(木曜日※週は決まっていない)一関市摺沢市民センター等にて練習を行っている。

〒029-0711
一関市大東町大原字台99-10
TEL: 0191-72-2325(代表・太田)

写真: 練習時の集合写真(令和5年5月)



楽しく幸せな気持ちを、みんなに

市民センター事業からの独立

平成29年4月に活動を開始した「オカリナサークル ハピネス」。発足のきっかけは、大東町摺沢でピアノ講師をしていた小原ヨシエさん(令和5年1月逝去)が、一関市摺沢市民センターに「摺沢市民センターの事業としてオカリナ教室ができないか」と相談したことです。

20年程前にオカリナに出会い、通信教育でオカリナを学んだという小原さん。「オカリナの魅力を伝えたい」という小原さんの情熱が伝わり、平成27年、同市民センターにて、小原さんを講師としたオカリナ教室が開講します。

当初は数人でスタートしましたが、次第に受講生が増加。翌年には第2期生も加わり、月数回の練習に励んでいると、地域からの演奏依頼が来るようになりました。

その後、市民センターによる2年間の教室を卒業した第1期生が自主サークルとして独立すること

オカリナサークル ハピネス

に！平成29年4月、太田幸枝さんを代表に同会が発足すると、同年翌月には、オカリナ教室の受講生と共に宮城県仙台市で開催された「第1回オカリナ音楽祭」に岩手県唯一の団体として参加するという大舞台も経験しました。

翌年は第2期生が、さらに翌々年は第3期生が教室卒業と同時に入会。その後も毎年のように入会希望者があり、最大時には30名を超えるサークルに成長しました。

現在も代表を務める太田さんは、「独立する事はとても勇気が必要でしたが、みなさんに支えられて継続することができています。音楽の素晴らしさを教えてくれた講師のヨシエ先生は、晩年は病気の進行により自らは大好きなオカリナを演奏できない状態でしたが、それでも絶対に弱音を吐かずいつもニコニコと私たちに演奏の楽しさや音色の美しさを教えてくださいました。今度は私たちがその楽しさや音色の美しさ、癒しをたくさんの人に伝え届けてあげたいんです」と語ります。

「みんなで楽しく！」がモットー

「演奏者、聴衆者ともにオカリナの音色で楽しく幸せな気持ちに」という思いが込められているサークル名の「ハピネス」。大東町内のみならず、東山、室根、千厩、一関地域からオカリナ愛好者が集まっています。

練習は月2回で、演奏にはギター伴奏がつきます。レパートリーも100曲以上に増えましたが、難しい曲になると「指が追いつかない」「息が続かない」などの声がチラホラと聞こえはじめました(本番ではなぜかバツリですが)。

そのような状況を踏まえ、小原さんが目指した「オカリナの楽しさを広める」ためには、「まずは自分たちが楽しめないといけない」と、原点に立ち返り、現在は「間違ってもいいのだから、みんなで楽しく演奏しましょうー」をモットーに活動しています。

「メンバーが楽しむ」ということを何よりも大切にしているという太田さんは、「会員は60〜80歳代。みなさんの意欲が素晴らしく、自慢のサークルです。まさに『生きがいづくり』『健康づくり』『生涯学習』の極みです。そして『ここへ練習に来るのが楽し

オカリナの持つ癒しと健康維持パワー

「み」という声もたくさん。コロナ禍でサークル活動を休まざるを得ない状況も続きましたが、令和4年度からは、ほぼコロナ禍前の練習状態に戻り、各所からも演奏披露のお声かけを頂き、みんな元気に楽しく活動ができています」と微笑みます。

肺活量は加齢とともに減少していくものですが、「オカリナを吹くことでそれが鍛えられ、さらに譜面を見ながら指を動かすことで認知機能衰退の抑制にも効果が期待される」と太田さん

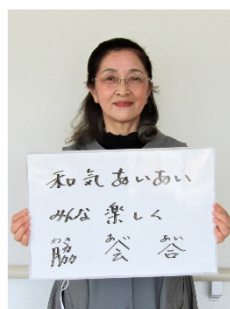
オカリナは気鳴楽器の一種。私たちに身近なりコーダーなどは共振系の形状が異なっており、演奏者の息遣いで音の温かみが深まる楽器であるといえます。鳥のさえずりを連想するようなオカリナの音色は、人を癒し、穏やかな気持ちにさせ、人々を魅了します。

発足当初はオカリナという楽器の珍しさもあり、自治会の収穫祭、敬老会、新年交賀会など、様々な地域イベントから頻繁にお声がけが。小原さんは「絶対に断らない」という姿勢で対応し、その魅力を広めてきました。

「聴いてもらうという楽しみの場。

Q.あなたにとって「ハピネス」は？

代表



おおた ゆきえ
太田幸枝さん

音楽が大好き。「FMあすも」で受講者募集のお知らせを耳にしたことで、第1期生として教室に参加しました。

A. 和気あいあい みんな楽しく 協会 会

相談役兼ギター伴奏者



さとう ひろあき
佐藤博昭さん

「オカリナ教室」を開講した当時の市民センター所長。オカリナ演奏にギター伴奏で参加しつつ、退職後も相談役として尽力しています。

A. 仲間

聴いてくれるという嬉しさ。それが私たちの励みになり、そしてこれからもその魅力を広めていければと思う」と語る太田さんは、共に切磋琢磨した仲間と共に、オカリナの音色を里山に響かせ続けます。

- Photo

gallery -



自治会事業での演奏
令和2年11月に曾慶2区で開催された自治会事業(交流会)で演奏。約100曲あるレパートリーから適宜選曲しています。



「東山うれし市」にて
令和5年3月は東山町で開催された「東山うれし市」で演奏。日頃の練習の成果を存分に発揮しました。



生きがいに繋がる
サークルメンバーは、ほとんどが大東町内在住。「ここ来ると話もできて楽しいね」と第1期生は語ります。



2代目講師を迎え
令和5年2月から2代目講師に元小学校教諭の伊東さんを迎えました。月2回の練習を無理なく楽しく開催しています。

千厩地域の賑わいを創出する役目を担って

新町地区自治会(千厩)
行政区は「千厩1の3区」。298世帯(32班体制)、約700人が暮らす。「新町にぎわい交流施設 新町J a J a馬プラザ」や「せんまや街角資料館」などのほか、幼稚園や医療機関、各種商店、金融機関などがコンパクトにまとまった地区。

左の写真：令和5年度総会の様子



「新町地区自治会」の前身は「第二町内会自治会」。昭和63年7月に発足し、平成5年に現名称に変更しました。現在の同自治会の街並みが完成したのは平成11年。昭和62年から行われていた「沿道区画整理型街路事業」が終了し「じゃじゃ馬通り」ができました。その後、「協同組合千厩新町振興会(平成3年法人化)」が中心となり、「まちの駅」の調査研究を開始します。同自治会も「自治会館」としての活用を念頭に、調査研究、検討にも積極的に参加。そして平成17年、新町の中央部に晴れて新施設「新町にぎわい交流施設『新町J a J a馬(じゃじゃうま)プラザ(以下、J a J a馬プラザ)』」がオープンします。開設、建設時には、コスト軽減のため地域住民もボランティアとして参加しました。同施設の駐車場は、毎月第2土

新町地区自治会

千厩

曜日に開催される「千厩夜市」のイベント会場としても活躍しています。多くの人で賑わう夜市が「明るく住みよい地域の形成に大きく貢献している」と、自治会長の千田恭平さんは語ります。

住民総出の夏祭り新たな課題

千厩町の主要行事の一つと言えるのが「千厩夏祭り」。同自治会でも「千厩おどり山車競演会」に参加し、住民総出で法被を着て盛り上げています。3年ほど前に後継者不足から山車の制作は取りやめましたが、子どもたちの活躍の場である「太鼓屋台」で参加を続けています。

また、女性部を中心に参加する「千厩おどり」は、1週間前から「J a J a馬プラザ」で練習が行われ、同自治会は夏祭りムードに包まれます。

千厩町の中心地域の一つであり、賑やかな印象がある一方で、少子高齢化の影響は他自治会と同様で、

夏祭りで活躍する小学生は、かつてと比較すると半分以下(約20人)になってきている同自治会。小学校の統合に伴い、「千厩地区民運動会」の会場も変更になり、これまで徒歩で参加していた人が参加を見合わせるなど、「移動手段の確保」という新たな課題も発生。「これまでは様々なイベントに積極的に参加してきたが、人集めの負担が大きくなり、今後はイベントそのものを見直す必要がある」と、課題に向き合う姿勢を示します。

各々が活躍できる場づくり

総務部、事業部、自主防災部、健康福祉部、子供会育成部、運動部、女性部、長生部という8つの部会があり、各部の自主性にゆだねて活動している同自治会。各部の構成員にも定めはなく、それぞれの事業内容に合わせた人選をしています。

特に活発に活動している健康福祉部は、コロナ禍で活動が制限される中でも、野外活動を事業の中心とするなど、柔軟に対応。従来の花壇整備事業を、畑での野菜栽培に変更するなど一工夫を加えました。また、「蔵サポーターの会」に所属するメンバーも多いため、

「千厩ひなまつり」への協賛もしています。そのほか、ごみ減量のために古着などを再利用したエコバック作成や防災活動、資源ごみ回収、地域の川の浄化活動など事業は多岐にわたります。長生会は「まゆ玉ならし」など地域の季節行事を「蔵サポーターの会」と協力して開催しています。昔ながらの遊びや食事をする事で、子どもたちとの世代間交流の場としても大いに活躍しています。「千厩町長生会連合会」が主催するシルバー芸能発表会では「水戸黄門おくに巡り」を令和2年に発表し、大好評でした。広報発行も300回を超え、地域に根差した活動を発信し続けています。

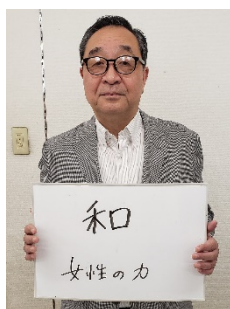
健康福祉部は、「おひさまの会」「コスモスの会」「アップル会」の3つの会に分かれた事業を展開しており、自分のライフバランスに合わせた活動ができるようにしています。「シルバー、女性陣のパワーがますます、く、圧倒されることもあります。地域のためにと活動している人が多いのも当自治会の特徴では」と、同自治会副会長(行政区長兼務)の昆野新哉さんは語ります。

コロナ禍で停滞した事業もありましたが、「今年度からは地元の千厩高校の生徒と一緒に花壇づくりなどを再開

したい」と意気込む千田さん。各部の自主性を重んじ、各部もそれに応えるように住民それぞれの活躍の場を創り出している同自治会。若い力を取り入れることで、また新たな活躍の場を生み出していきます。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長

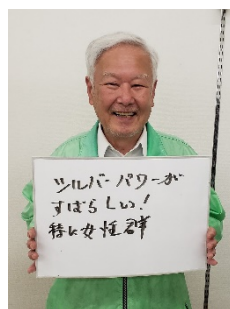


A.和 女性の力

ちだ きょうへい
千田 恭平さん

7期14年目。東京から40歳でUターンし、父から継いだ「ちだや洋品店」も営みます。一関市議会議員でもあり、様々なことに取り組んでいます。

自治会副会長



A.シルバーパワーがすばらしい！特に女性群

こんの しんや
昆野 新哉さん

3期5年目。平成初頭まで、新町で古くか営んでいました。妻の洋子さんも女性部で活躍しており、夫婦で新町地区を支えています。

- Photo

gallery -

鯉のぼり掲揚



自治会の発足を記念し、平成元年から千厩川に鯉のぼりを掲揚。地元幼稚園の子どもたちとの交流の機会にもなっています。

子どもたちの舞台



山車の制作はやめました。千厩夏まつりには子どもたちの太鼓屋台で参加。小学生を中心に威勢よく打ち鳴らします。

地区民運動会・優勝



平成26年に悲願の優勝を達成！。現在は少子高齢化の影響で参加自体に苦勞していますが、優勝を目指す気持ちは今も……！

創立記念誌

創立20周年と30周年を記念して作られた記念誌。新町自治会の10年ごとの記録が残されており、昔話に色を添えます。



花泉 便利屋サンライト

「困った時の便利屋さん」として、草刈作業、立木伐採、空家解体、住宅補修(リフォーム)、屋根・建物塗装、給排水設備、ハウスクリーニング、不用品処分等に対応。小さな修繕・整備等は、代表の佐藤忠浩さん自身も手掛けつつ、依頼者の「困った」に対し、それを解決するためのプランニングや、必要な業者を繋ぎ、連携するための仲介をするケースも多々。平成22年に現住所に自宅兼事務所を構え、花泉町内のみならず、一関市全域からの依頼に対応しており、中には「猫を捕まえて欲しい」「トイレが詰まった」など、依頼内容は多岐に渡ります。社名の「サンライト」のように、困りごとの解決の糸口が見つかり、明るい光に照らされるよう、依頼者に寄り添っています。

あなたの「困った」に寄り添い、暮らしのお手伝いを

自身の経験を生かした ライフサポート

平成20年、高齢になった両親を近くで見守ろうと、県外から一家で一関市に移住した「便利屋サンライト」代表の佐藤忠浩さん。様々な業種を経験していた佐藤さんは、そのノウハウを生かすべく、移住後間もなくして同看板を掲げました。

土地勘もなく、知り合いもいない一関で「田畑が広がり自然豊かな一関では、草刈りが大変だろうな」と感じていた佐藤さんは、刈り払い機を担いで営業活動に励みます。

「なんでもやります、ゴミ袋一個でも依頼は受けます」と地域を回って自身を売り込んだ当初を振り返りながら「最初は誰にも相手にしてもらえなかったな」とポツリ。

ようやく舞い込んだ最初の依頼は読み通りの草刈り。「管理しているアパートの草刈りをしてほしい」という不動産屋からの依頼でした。その流れから、個人宅の草刈り依頼につながり、「実はこういったことも困っていて」という相談を持ち掛けられ、依頼者がどのように困っているのか、どのような解決方法を望んでいるのか、丁寧に話を聞きながら対応しました。

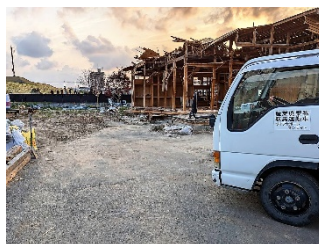
すると「頼んでとても良かった」と、人から人へと繋がり、「ゴミ袋一個でも」が浸透していききました。

困りごとを見える化し、 解決策を具現化する

サンライト設立から3年後、東日本大震災が発生。市内でも家屋が半壊するなど多くの被害が確認され、被災者生活再建支援金制度(国)や、被災者住宅再建支援事業費補助金(岩手県)の申請手続きが当市でも開始されますが、制度を知らない人、知っていても手続きが分からず困っている人も多数いました。

制度や補助金について市に確認をした佐藤さんは、出来るだけ高齢者にも伝わりやすいように説明をして回りました。「申請が難しい(煩わしい)」という認識を持った人に寄り添って行く中で、次第に相談内容が住宅の補修(リフォーム)に関することに発展していきます。

「困っているのに、困っている内



- 1 近年相談の多い空き家解体の様子。
- 2 法面含め、草刈りの依頼は毎年恒例となったものも多い。
- 3 複数の資格をもつ佐藤さん。重機も自社で所有しています。

DATA

〒029-3102
一関市花泉町金沢字下寺袋59
TEL 0191-48-4912

容をうまくまとめることができなかつたり、何を要望していいのかわからない依頼者も多いです。『とりあえず何でも相談してみよう』というところからサンライトのモットー」と、佐藤さん。

近年、サンライトが受ける相談で増加傾向にあるのは、空き家のゴミ処分に関することや、高齢者世帯の自宅・敷地内にある物置等の片付け、解体に関する相談(依頼)。

特に、都会に移住した若者世帯(高齢者世帯の子もたち)からの、実家の整理や空き家処分に関する依頼が多いと言います。「ゴミ処分後に空き家を売りたい」という話まで。そうした空き家をサンライトが購入・リフォームし、貸家にするケースもあります。

現在は佐藤さんの息子もサンライトとして依頼をこなしており、今後一助を担っていきます。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴(36)
規格外にも、
プライドがある



第52話

言葉やイメージの「独り歩き」にご用心

いわゆる「ど根性野菜」は、ニュースになり、見たことのある人も多いはず。物は言い様で、「ど根性野菜」と言えば、「よくそんなところから立派に育ったな!」というポジティブなイメージになりますが、それを「規格外野菜」と言ったら、どうでしょうか?ネガティブなイメージが出てきてしまいませんか?

イメージ作戦とは重要で、そのイメージによって価値や評価に直結するので、なるべくマイナスイメージにならないようにしたいもの。しかし最近、マイナスイメージをあえてそのままにして、「課題解決につなげていこう」という取り組みも多く見られます。課題解決された状況を見せつつ、そのプロセスに価値をつけるものです。その取り組みには、横文字が多く使われており、「正直、なんのこと?」ということが多いです。

例えば、「『サステナブル』な社会」の実現。よく聞きますが、何を指しているかわからず、「『持続可能な』社会」と言ってもらった方が、よっぽどわかりやすいです。国や市が使うから同様に使う……のではなく、**市民には市民向けの言語がしっくりくるのです。**

課題は、横文字だけではありません。日本語であっても、使い方があっていないというか、本質を捉えていないと感じる表現が……。例えば、「一関市産の『規格外野菜』を使って子ども食堂を支援し、食品ロスもなくしていく」という企画を目にしたのですが、正直、違和感しかありませんでした。要は「子ども食堂支援のために市内の『規格外野菜』をわざわざ集める」という企画だからです。

そもそも、「規格外野菜」も立派な野菜で、無条件で廃棄されるということはありません。それなのに、「食品ロス」の文脈も付け足すことで、さも「規格外野菜は廃棄され、食品を無駄にしている」ようなイメージに…。

これは、「**売れる企画(仕組み・パッケージ)**」をつくっているだけで、本来解決すべき「規格外野菜も売れる」という仕組みにはしていません。農産物は、色・形が良いものは「規格品(=商品)」として売り場に並びますが、残念ながら「商品」としての「規格」に合致することができなかった野菜たちは「規格外品」となり、商品にはなれないのです(「2軍選手」は産直などの「商品」になることも)。単に見た目が悪かったり、サイズが合わないというだけで、同じ野菜です。ですので、生産者の食卓に並んだり、隣近所に配ったりして、「自家消費」をしたり、加工食品の材料にするなど、「食用」には変わりないはず。規格外野菜にも野菜としてのプライドがあります!生産者だって、手塩にかけて育てた農産物を、そう簡単に無駄にはしませんよ。

台風や大雨など、自然災害によって収穫前の農作物が廃棄になる可能性がある時は、ニュースになり、「食べられる状態のものはなんとかしよう」という動きに。場面の切り取り方によっては「廃棄」に視点が集中してしまいがちですが、**前後の背景も捉えてみないといけません。**

「子ども食堂」や「プレーパーク」など、**言葉やイメージだけが独り歩きし、「やりたい」という人が増えているのが今。本当は「私は、それがやりたい!」ではなく、「それをする事で社会がどう変わるのか?」と、将来の姿を描くべき**なんです。手段が目的と化しては、課題解決や持続可能な社会の実現にはつながりません。

ちなみに「プレーパーク」とは、「子どもたちが自由に、自分たちで遊びを創り出せる遊び場」を指し、そういう場を求める声が市内でも聞こえています。田畑や里山が豊富な一関は、わざわざプレーパークを作らなくても、どこにでもそうした場があります。むしろ足りないのは、「**子どもがのびのびと遊べるようにしてあげられる大人**」、つまりは「**ソフトメニューを創り出してあげる大人の存在**」なのではないでしょうか。インターネットやメディアの情報だけを漁り、「いいな」と思ったことを自分で実行することが「まちづくり」だと勘違いをされがちで、本質を捉えていない姿勢に「困ったな」と感じるわけです。

「私は、ひとり親家庭などへの子ども支援が必要だと感じていて、子ども食堂を行うことで、一関市内に孤食や貧困家庭がなくなっている姿を創りたい」など、**「ビジョンを描ける市民」が増えることが重要**です。つまり、自らがプレーするプレーヤーではなく、「**戦略を練ることができる**」プレーヤーが必要なのです。



スタッフSの娘たち(2年前)。大雨の後に庭にできた巨大な水たまりに大はしゃぎして、全身水濡しに……。大人にとっては「規格外の遊び」か、子どもたちにとっては「大好物」なんですよ(笑)

地域の「気になること」をセンタースタッフが独自に調査!

ミッション 78 暮らし調査 「調理の習わし」 ファイルNo.22

「家」で行う「祝儀」「不祝儀」の「煮しめ」を再現してみた

祝儀・不祝儀によって、使用する具材や食材の切り方が異なることが多かったという「煮しめ」。**各家によって考え方や切り方は様々**ではあるものの、大東町食生活改善推進員の役員有志のみなさんにご協力いただき、ヒアリングでの共通事項が多かった調理方法で、再現してみました!



祝儀

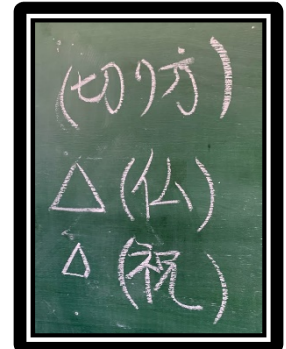


不祝儀

冠婚葬祭の儀式を家で行っていた当時(概ね昭和40年代頃まで)に、お膳とは別に作られていたという「煮しめ」と「おふかし」「たくあん」の3点セット。左が婚礼などの祝儀用で、右が葬儀などの不祝儀用です。
まず意識するのが、**具材の数**。祝儀の場合、「煮しめ」に使われる具材は**7品もしくは9品と奇数**になるように調達します。これは「割れない数」にすることで、「別れ=離婚」を連想させないためなのだとか。今回は「大根、人参、里芋、牛蒡、こんにやく、凍み豆腐、昆布」の7品で作りました。同じ奇数でも、「3」という数字は「3切れ=みきれ=身を切る」という連想から、具材を盛り付ける数などが3にならないようにするそうです(たくあんを取り分ける際に、3切れにはしない、など。※あくまでも各家の考え方によります)。
また、祝儀の場合は**彩り**を大事にしますが、**不祝儀では赤い食材を避ける**ために、人参は使用しない家もあったようです(人参の収穫・保存時期にも関係?)。「おふかし」も同様に、祝儀では**赤飯**(小豆のほか、食紅も使用)ですが、不祝儀では**白インゲン豆**を用い、色味をもたせなかったようです。

当センタースタッフが室根地域で見かけた黒板に書かれた2つの図形。それぞれの横に「仏」「祝」と書かれており、聞けば「凍み豆腐の切り方」だと言うのです!冠婚葬祭にまつわる風習は様々ありますが、食材の切り方にも風習があることを知り、凍み豆腐以外にもあるものか、調査をすることに。祝儀・不祝儀で切り方が異なる食材や、使用する材料が持つ意味など、調理にまつわる習わしには地域性があるのでしょうか?それとも……?
※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

▼きっかけとなった板書。室根第2区自治会の自治会館にて。



「煮しめ」に見る習わし
「祝儀・不祝儀によって、食材の切り方が異なる調理があるらしい」という認識を持った我々。該当する料理は何かヒアリングをしていくと、「煮しめ」に辿り着きました。
冠婚葬祭に関連する食事が、会館や仕出し等の利用ではなく、各家で行われていた時代、大量に作ることもできる「煮しめ」は、祝儀・不祝儀どちらにも欠かせない料理の一つであり、お膳とは別に用意され、参列者だけでなく、お手伝いの人たちにも振る舞われていたのだとか。
しかし、同じ「煮しめ」でも、**使用する材料や、それぞれの材料の切り方に、祝儀・不祝儀による違い(調理法の習わし)がある**というのです。こうした違いは、「煮しめ」とセットで用意されることが多い「おふかし」にも!
左頁で詳しく紹介しますが、そのポイントは「色」「数」「名前」に由来する「ゲン担ぎ」もしくはその逆、ということが、ヒアリングによって見えてきました。



昆布

「よるこんぶ」という語呂合わせから、古くから縁起が良い食材とされます。「結び昆布」にすることで、「固く結ばれる」として、さらに縁起が良いイメージに。「子生婦」と書いて子孫繁栄の意味合いを持たせることから、不祝儀では避けられ、出汁を取るためにしか使用しないそうです。



こんにやく

祝儀では「手綱切り(こんにやくの中心に切れ目を入れ、切れ目の中に一方の端をくぐらせてねじりを加える)」にすることで、「結び目」を連想させ、「良縁成就」の意味を込めるとのこと。
人と人とのつながりや結びつきに恵まれ、円満な人生が巡ってくるように…とのゲン担ぎです。不祝儀では手綱切りはせず、三角にします(凍み豆腐参照)。



凍み豆腐

三角に切ることが多い凍み豆腐。三角は、永眠した方の額に巻く「天冠(三角形をした布巾)」を連想させるため、不祝儀では問題がないですが、祝儀ではそのイメージをなくすため、三角にならないような切り方をします。「角を落とす」という意味も。



▶縦半分に切った後、頂点をずらしてななめに切るなど、三角にならないように工夫。



根菜

彩りを添えるため、祝儀では人参などを飾り切りにしたり、里芋も六角形に、大根も面取りをします。煮崩れ防止の意味もありますが、「角が立たないように」というゲン担ぎや「手間をかけて準備した」というアピールにも。不祝儀は「急なことなので」と、単純な切り方をします。

<協力> 大東町食生活改善推進員役員有志(佐藤律子さん、佐藤眞里子さん、伊東芳子さん、平岩愛子さん)ほか <参考文献> 藤面では割愛させていただき、当センターホームページに掲載します。

「こだわり」を演出する?
これらの習わしは、何を起源・由来とするのか、文献等で探してみるも、意外なほどに該当する記載が見つかりません。当地域では「小笠原流」の婚礼儀式が江戸末期に一般庶民にも定着し、昭和中期頃までそれが行われていたため(本誌2021年7月号でも紹介)、その影響を疑いましたが、関係は見つけられず……。
そこで、「誰から教えられたか」をヒアリングしていくと、回答の多くは「**本家の女性**」でした。会館等ではなく、「家」で冠婚葬祭の儀式を行っていた昭和40年代頃までは、その調理を取り仕切っていたのは「**本家の女性**(もしくは親類縁故の年長女性)」だったのです(婚礼の場合は、「めんばんし」と呼ばれる集落内の料理人の場合も)。
「家」で客人をもてなすためには、多くの「お手伝い」が必要であり、近隣住民や縁故関係の女性によって調理が行われます。この時の中心になるのが「**本家の女性**」で、**献立を考え、食材や調理方法の指示・伝授**をしました。
その内容が家や集落で伝承(口伝)されてきたと考えられますが、婚礼儀式のような「**一貫性**」が薄いのです。そこから推測するに、調理にま

婚礼は食材が豊富な時期に?

左頁で紹介しているように、祝儀の際に調理される「煮しめ」は、それぞれの食材に一工夫が盛り込まれた手が込んだものです。反対に、不祝儀では、野菜の面取りなどはせず、こんにやくや凍み豆腐も単純な三角形。当地域では「煮しめ」同様に冠婚葬祭共通で調理されることが多い「雑煮」で見ても、祝儀では細かく千切りにされた「ひきな」、不祝儀ではイチヨウ切りです。こうした違いは、婚礼などの祝儀は、事前に日程が決められているため、手の込んだ準備ができるのに対し、葬式などの不祝儀は予期せぬ出来事であり、準備期間がない(ことを象徴するため)ためだと言います。
現代のように通年で野菜等が出回っていない時代には、婚礼儀式は食材(根菜類)が豊富で、準備にもしっかりと時間がかけられる(紅白の「なると」等、調達しなければならない食材が多々)農閑期(「さなぶり」の時期や、11月~3月頃)に行われることが多かったようです。
なお、不祝儀の際には、各家庭から野菜を持ち寄って対応していたそうで、「香典帳」ならぬ「野菜帳」が存在していたという話も。「食材調達」の大変さが伺えます。

つわる「習わし」は、由来や起源として共通する明確なものではなく、各家の「**こだわり**」や「**おもてなしの気持ち**」を表現するために、**本家女性**が様々な知識を駆使して生み出したものであり、料理の**付加価値**のよくなものなのかもしれません。